

スポーツ・ボランティアの継続参加意思を規定する要因に関する研究

スポーツビジネス研究領域

5007A010-1 内田佑介

研究指導教員： 間野義之准教授

1. 研究の背景

わが国のスポーツイベントにおいて、ボランティアが公募され、初めて組織的に活躍したのは1985年の「ユニバーシアード神戸大会」であった。特定のスポーツに深く関わった人々に加えて、広く一般の人々にボランティアによるスポーツイベントの支援が次第に一般化した背景には、スポーツイベントによる地域活性化を目指す事例の増加や、1998年の長野冬季五輪においてのボランティアへの注目が挙げられる。イベントに参加するボランティアに対する研究も山口を始めとして行われており、今後もスポーツイベントを支えるボランティアのニーズが高まるにつれ、参加促進や活動継続に関する予見の蓄積が必要になるだろう。

2. 研究目的

本研究では、スポーツイベントに参加するボランティアを対象に参加継続意思を既定する要因を明らかにすることを目的とする。

3. 研究方法

調査対象は、2008年8月8日～8月10日に行われた「湘南オープンウォータースイミング2008(以下、SOWS2008)」に参加したボランティアである。SOWSは毎年夏に開催し、今回で5回目であり、いずれの大会でもボランティアが参加している。活動終了後にスタッフより質問紙を配布し、回収は8月31日の期限を設け、返信用封筒による返送で行った。調査概要と回収結果は表1のとおりである。

表1 調査概要と回収結果

対象者	477名 (SOWS2008の全ボランティア登録者)
調査方法	郵送法による質問紙調査
調査期間	2008年8月8日(金)～8月31日(日)
回収数	219 (回収率:45.9%)
有効回収数	208 (有効回収率:43.6%)

調査内容は、個人的属性、参加動機、活動への評価、次回大会への継続参加意思などによって構成されている。参加動機は本大会に参加したボランティアリーダーに対して予備調査を行ったのちに決定した。

4. 結果

参加動機28項目に因子分析を行い、参加動機を構成する5つの因子を抽出し、「気晴らし」「大会支援」「自己実現」「依頼」「奉仕」と命名した。これにより、スポーツイベントに参加するボランティアが多様な因子で構成されていることが明らかになった。また、活動への評価12項目に因子分析を行い、2つの項目を抽出し、「組織サポート」「業務内容」と命名した。

「継続参加意思」を被説明変数とし、「属性」、「過去の行動特性」、「参加動機」、「活動への評価」、「満足」の影響を詳細に把握する目的で階層的重回帰分析(強制投入法)を行った。

ステップ2では、継続参加意思の説明力は小さいが過去大会の参加が継続参加意思に有意に正の影響を与えることが示された。

ステップ4では「活動の評価」が2因子とも継続参加意思に有意に正の影響を与えていることが示された。

ステップ5では満足のみが有意に従属変数を説明する変数となった。

また、継続参加意思に影響を与えていた満足を従属変数にして重回帰分析を行ったところ評価：組織サポート、評価：業務内容が有意に正の影響を与えていることが明らかになった。

5. 考察

階層的重回帰分析を行い、過去大会の参加が継続参加意思に有意に正の影響を与えることが示された。初参加者と活動継続者の比較では活動継続している方が、継続意欲が高いことを明らかにしている先行研

究も見受けられた。過去の大会で満足を得た層が続けて大会に参加し続けていることが考えられる。

ステップ4 では「活動への評価」が2 因子とも継続参加意思に有意に正の影響を与えていることが示された。このことから本大会に参加するボランティアからは、ボランティア・マネジメントの重要性が示唆されるのではないだろうか。

満足も含め、全ての説明変数を含めた分析では、満足のみが有意に従属変数を説明する変数となった。満足は変数の中で継続参加意思との相関も一番高かった。このことから、様々な参加動機が認められるなかで、個人それぞれの満足を満たす事が継続参加意思に影響を与える事が示唆される。

満足は、継続参加意思に有意に正の影響を与えているという結果を受けて、満足を従属変数にして重回帰分析(強制投入法)を行ったところ評価:組織サポー

ト、評価:業務内容が有意に正の影響を与えていた。「活動に対する評価」から「満足」に影響を与え、「継続参加意思」に間接的に影響を与える可能性が示唆された。

本研究では、参加動機項目はボランティアの継続参加意思、満足それぞれに直接影響を与えないという分析結果が出た。桜井の「ボランティア活動の継続性を検証する際に参加動機要因以外の要因を検証に扱わない場合に慎重な理解が必要」との考察を支持する結果となったといえる。その一方で、重回帰分析の決定係数は高いとは言えない値である。継続参加意思を説明するための要因を今後の研究において蓄積する必要があると考えられる。

表2 継続参加意思を従属変数とした階層的重回帰分析

	標準偏回帰係数(β)				
	ステップ1	ステップ2	ステップ3	ステップ4	ステップ5
2. 性別	-0.019	-0.210	-0.013	-0.050	-0.023
3. 年齢	-0.036	-0.088	0.016	-0.012	0.046
4. クラブ・団体ボラ経験 ダミー		0.028	-0.030	0.036	0.007
5. イベントボラ経験 ダミー		0.132	0.069	0.089	0.099
6. スポーツ以外ボラ経験 ダミー		-0.125	-0.096	-0.110	-0.130
7. 参加回数		0.158*	0.118	0.073	0.056
8. 参加動機: 気晴らし			0.193	0.133	0.088
9. 参加動機: 大会支援			0.032	0.003	0.024
10. 参加動機: 自己実現			0.158	0.138	0.105
11. 参加動機: 依頼			-0.019	0.038	0.037
12. 参加動機: 奉仕			0.049	0.009	0.021
13. 評価: 組織サポート				0.191*	0.068
14. 評価: 業務内容				0.218**	0.025
15. 満足					0.380***
F値	0.126	1.910	2.975***	3.900***	5.158***
調整済みR ² 乗	-0.009	0.027	0.108	0.183	0.258
従属変数: 継続参加意思					

***P<0.01, **P<0.1, *P<0.5